対馬グリーン・ブルーツーリズム協会

安全管理マニュアル

令和二年度

はじめに

令和 2 年、新型コロナウイルスの世界的な大流行が起こりました。各国で外出自粛や短縮営業の要請などが行われ、観光業はかつてない苦境に立たされています。今なお、新型コロナウイルスの感染拡大は継続しており、観光事業者、宿泊事業者は、感染症対策の徹底が、事業継続の絶対条件となっています。感染の拡大を防止しつつ、経済活動も行わなければならないという中で、「安全管理」の必要性が、改めて見直された出来事でした。

私たちが運営している、農林漁業体験民宿（民泊・農泊）は、単に宿泊施設としてお客様を泊めるだけではなく、体験活動の提供をともなう、滞在型の観光サービスです。一般的な宿泊施設で求められる、「非接触」という対応が不可能な場面もたくさんあります。そのため、農林漁業体験民宿に特有の場面を想定した、独自の対応が求められます。

本マニュアルは、新型コロナウイルスの感染症対策の検討を機に、もう一度農林漁業体験民宿に特有の安全管理のポイントを洗い出し、体制づくりを行うことを目的に作成しました。

お客様へ「安心・安全」を提供する私たちの責任について、今一度問い直す一助となれば幸いです。

目　次

第 1 章　農林漁業体験民宿における安全管理の基本方針.....1
1.　農林漁業体験に潜む危険性と安全管理の必要性.....1
2.　安全管理のための 3 つのステージ.....1
3.　事故を防止し、安全な体験をするために.....4
第 2 章　事故防止のための対策（事前の安全管理）.....6
1.　食品衛生に関する対策.....6
2.　体験活動中の事故防止.....8
3.　防犯対策.....9
4.　火災予防.....10
5.　自然災害への対策.....11
第 3 章　万が一事故が発生したら（緊急時の対応）.....12
1.　緊急時の対応の流れ.....12
2.　応急処置.....13
3.　火災が発生したら.....17
4.　地震が発生したら.....18
第 4 章　体験プログラムにおける安全管理.....19
1.　調理体験.....19
2.　海での体験.....20
3.　農業体験.....22
第 5 章　外国人観光客への対応.....24
1.　事前の情報収集.....24
2.　緊急時の対応.....24
第 6 章　感染症への対策.....26
1.　受け入れ環境の整備.....26
2.　事前の情報収集.....26
3.　滞在中に留意すること.....27
4.　お客様へお願いすること.....28
5.　感染症が疑われるお客様がいた場合.....29
付録.....30
安全管理チェックリスト.....30
緊急連絡先一覧.....32

第１章　農林漁業体験民宿における安全管理の基本方針

1. 農林漁業体験に潜む危険性と安全管理の必要性

農林漁業体験民宿では、単に宿泊客を寝泊まりさせるだけではなく、食事の共同調理、農林漁業体験プログラムの提供など、サービスが多岐に渡ります。食事の提供については、食中毒の予防に加え、食品アレルギーに対する対策も求められます。農林漁業体験では、海辺や急斜面など、場所に特有の危険性を十分に意識する必要もありますし、普段使い慣れていない道具や機械類を扱うこともあります。天候にも留意しなければなりません。

このように、「いつ、どこで、どのような事故が起こりうるか」を想定しなければいけない範囲が、一般の宿泊施設に比べて極めて広いのが、農林漁業体験民宿の特徴です。受け入れ側にも、幅広い分野の知識や技術が求められてきます。研修などに積極的に参加し、知識や技術の量を増やしていくことはもちろんですが、「事故の危険性」を理解し、安全への意識を高く持つこと、そして、受入側だけではなく、参加するお客様にも、理解してもらうことが大切です。

2. 安全管理のための３つのステージ

前述したように、農林漁業体験民宿は、サービスの範囲が宿泊から食事、体験まで広範囲に及ぶため、漠然と安全管理を考えても、想定しなければいけない多くの事柄に対して十分な配慮ができません。安全を考える際には、「予測と予知」「回避」「対策」の３つのステージに分けて考えると便利です。この 3 つのステージは、安全管理を考えるときの順番でもあり、同時に優先順位でもあります。

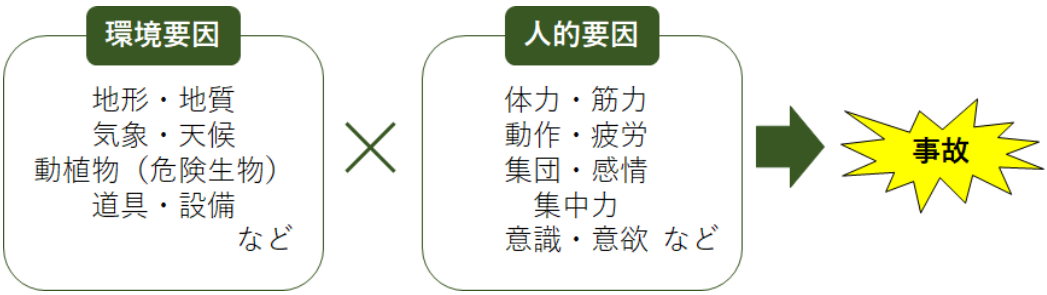
どんなに対策しても、危険を完全になくすことはできません。私たちにできるのは、起こりうる危険を予測し、その発生確率を少なくすることと、発生した時の被害を小さくすることによって、「許容できる範囲に危険を抑え込む」ことだけです。

ステージ１　予知と予測

安全管理を考えるにあたり、最も重要なことはこの「予知と予測」です。活動に際してどのようなことが起こりうるかを想定できていないものについては、その事故が起こらないように対策することが出来ないからです。

事故が起こりうる要因（リスク）には、周囲の状況に関するもの（環境要因）と人に関す

るもの（人的要因）があります。環境要因には、地形や地質、天候、動植物、道具など、人を取り巻く環境によるものがあり、これらのことは一般に危険要因としてイメージしやすいものと思います。人的要因には、能力や体力を超えた活動、意欲の低下、注意の欠落、疲労など、人に内在する様々な要員で、指導者に関するものと参加者に関するものがあります。これらの環境要因と人的要因が重なったときに事故は起こります。したがって，この２つの視点をもって，いかに敏感に危険性を予知・予測できるかが、安全管理の第一歩となります。

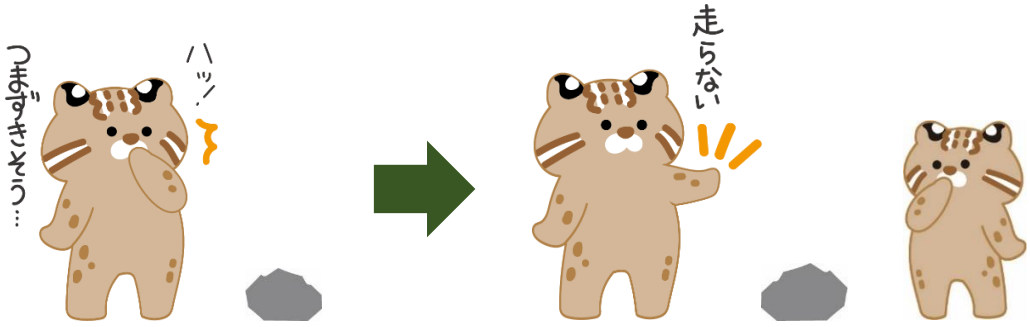


ステージ２　回避・コントロール

予知・予測した危険性に関して、その状況（事故）が発生する確率を下げることを回避、またはコントロールといいます。

例えば、「地面に石が落ちているので、子どもがつまずいて捻挫するかも」という危険性が予測された場合、「あらかじめ石を拾っておく」というようなことが回避です。「走らないようにしよう！と注意を与える」や「場所を変える」というのも、回避の方法です。

このように、「時間帯を変える」「時期を変える」「道具を変える（そろえる）」「方法を変える」「原因を取り除く」「得意な人に任せてしまう」「中止する」などの具体的な方法を考えて、それにより「発生確率を下げよう」と考えることが、回避やコントロールと呼ばれています。



ステージ３　対策

入念に考え抜いたつもりでも事故が起こることはあり得ます。したがって、「起こってしまった場合にどうするか」を考えておく必要があります。起こったときに被害を小さくする対策です。

例えば、先ほどの「石が落ちているので、子どもがつまずいて捻挫するかも」という危険性については、万が一、ケガや捻挫をしてしまった場合の対策を考えておくのです。具体的には、「ケガの手当てができるように救急用品を揃えておく」「すぐに病院に連れていけるように病院の場所や連絡先を調べ、移動手段を確保しておく」「傷害保険に加入しておく」などの方法が考えられます。

避難訓練を実施しておく、CPR（心肺蘇生法）を習得する、緊急通報や病院への搬送手段の確保、救急用品の準備、スタッフ間で確認、避難場所と備蓄品の準備、などが「対策」に当たります。

安全対策といえば、この「事故が起こったときの対策」のみに焦点が当てられているように思われがちですが、最も重要なのは、「事故が起こらないようにすること」です。その視点から考えると、予知・予測→回避・コントロール→対策というのが優先順位になります。

3. 事故を防止し、安全な体験をするために

日ごろから、安全に対する意識を高く持ち、事前に徹底した準備をすることで、事故は未然に防ぐことが出来ます。対馬グリーン・ブルーツーリズム協会では、事故を防止するために、以下の４つのポイントに重点を置いて安全管理を行います。

ポイント① 研修の受講

効果的に事故を予防し、事故が起こったときに適切な対策を取るためには、十分な知識を習得しておく必要があります。対馬グリーン・ブルーツーリズム協会では、毎年、安全管理に関する研修を実施しています。必ず参加するようにしてください。

特に、食事の提供や調理体験を行うにあたって、衛生管理に関する知識や技術は重要です。通常は、飲食の提供のためには、飲食店営業許可を取得し、保健所が実施する衛生管理講習会を年に一度受講することが義務付けられています。農林漁業体験民宿については、飲食店営業許可は取得していませんが、協会で実施する衛生管理講習会を受講するようにしてください。

ポイント② 予防対策

上述の安全管理の 3 つのステージに即して、予防対策を講じます。施設や使用器具等に不具合がないか点検し、十分に道具や装備を整え、万が一の際の対策をシミュレーションしておくことで、事故を予防します。

巻末に、予防のためのチェックリストをつけていますので、受入前にチェックしておくようにしてください。

ポイント③ 事前の情報収集

事故の原因となりうる以下の情報について、事前に参加者に確認しておくようにします。

・アレルギー（食物、薬品、動物、ハウスダスト等）の有無
・持病や障害等の留意点
・体験に関する経験レベル
・年齢や性別などの特性

また、万が一の時の対策のため、以下の個人情報も取得しておきましょう。なお、これらの個人情報については、第三者に漏洩することの無いよう、適切に管理しましょう。

・氏名（フリガナ）
・住所
・緊急連絡先
・外国人の場合、パスポート番号

ポイント④　状況に応じた適切な判断

万全に準備を行っていても、天候や参加者の体調等によって、事故が起こることがあります。適切に状況を分析し、場合によっては「変更する」「中止する」という判断も必要です。

【変更・中止を要する状況】
□ 悪天候
□ 参加者の体調不良や疲労、意欲の低下
□ 受け入れ側の人員不足
□ 施設や器具等の故障　　など

楽しみにして来たお客様に対して、変更や中止の判断を伝えるのは、大変勇気がいることです。何とか実施してあげたいという気持ちにもなりますし、お客様から無理を要求されることもあるでしょう。そのような場合に毅然とした態度を取るためにも、それぞれの体験について「中止基準」を設けておくことは、大変便利です。

第 2 章　事故防止のための対策（事前の安全管理）

1. 食品衛生に関する対策

農林漁業体験民宿（民泊）で提供される食事や、自らの手で作る郷土料理体験などは、お客様にとって民泊に宿泊する際の楽しみの一つでもあります。

しかし、提供した料理から食中毒者が発生した場合、宿泊者に多大な負担を強いるとともに、地域全般の信用と信頼を失墜させることにもつながります。衛生管理を徹底し、食中毒事故予防に努め、安心・安全な民泊体験を提供しましょう。

1）　衛生管理講習会の受講

年に一度開催している「衛生管理講習会」は直接保健所職員に質問ができる貴重な機会です。協会会員である民泊は必ず参加し、新しい情報を手に入れるように心がけましょう。

2）　食中毒の防止策

民泊は、調理場にお客様が出入りすることから、通常の飲食店に比べ、調理場に菌が持ち込まれるリスクが高くなってしまいます。楽しい体験旅行が苦い思い出にならないよう、食中毒事故防止に努めることが大切です。

食中毒対策 3 原則

- ✓　食中毒菌を付けない　→　食材や手、器具をよく洗う、ラップ等で密閉する
- ✓　食中毒菌を増やさない　→　調理後は早めに食べる、温度管理を徹底する
- ✓　食中毒菌をやっつける　→　完全に加熱する、まな板や布巾等を消毒する

食中毒対策 3 原則を守ると同時に、すべての基本である手洗いをしっかり行いましょう。その際に、タオルの共有を避けるため、必ずペーパータオルを用意してください。

手洗い 4 神器

- ハンドソープ（液体石鹸）
- ペーパータオル
- ペダル式のふた付きごみ箱
- 消毒用アルコール（仕上げ用）

3）　食物等アレルギーの対策

アレルギーを持つ人は、近年増加の傾向が強く、中でも食生活の変化と食材の多様化によって、子どものアレルギーは顕著に多くなっています。特に、魚介類、そば、ピーナッツ等によって引き起こされるアナフィラキシーショックは、子ども、成人問わず命にかかわることから、食物アレルギーに関する正しい知識を身につけることが重要です。

このような現状を踏まえ、食品衛生法ではアレルギー表示が必要な原材料 7 品目を「特定原材料」、20 品目を「特定原材料に準ずるもの」として表示するように義務化しています。

また、犬・猫・鳥などペット類の動物性アレルギー、ハウスダストなどのアレルギーをもつ人も多くなってきています。

これらアレルギー対策については、宿泊予約の段階からお客様にアレルギーの有無、その種類と程度などの情報を提供してもらうことが必須です。事務局を通しての予約の場合、予約書の特記事項にアレルギーについての記載があります。アレルギーがあった際には、十分注意して食事の準備等、事前に対策をしておきましょう。

食物アレルギーの特定原材料（27 品目）

特定原材料（7 品目）

卵、乳、小麦、そば、ピーナッツ、エビ、カニ

特定原材料に準ずるもの（20 品目）

魚介類：あわび、イカ、イクラ、サケ、サバ

肉　類：牛肉、鶏肉、豚肉

果実類：オレンジ、キウイフルーツ、クルミ、モモ、リンゴ、バナナ、カシューナッツ

その他：大豆、マツタケ、ヤマイモ、ゼラチン、ゴマ

2. 体験活動中の事故防止

体験プログラムの提供は、農林漁業体験民宿の特徴であり、お客様も対馬ならではの様々な体験を楽しみに来島されます。海、山、田畑での作業は、日ごろから農林漁業に携わる対馬の住民にとっては当たり前のことですが、都市部にすむお客様、特に子供たちにとっては非日常であり、場合によっては初めての体験である場合もあります。経験の浅いお客様にとっては、私たちが気にも留めないような事が、事故の原因となることがあります。

そこで、冒頭に記した安全管理のステップに準じて、まずは危険の「予知・予測」を慎重に行うことが重要です。その上で、回避や対策を考えます。

ポイント①　事前の準備、情報収集

安全に活動を行うためには、事前に、予測される危険を回避する準備を念入りにしたかどうかがカギになります。適切な道具を準備しているか、その手入れはなされているか、といった装備に加え、活動場所の下見を十分に行い、危険の予測の精度を高めておくことも重要です。また、参加者の年齢、経験、体力、アレルギー等の特性など、危険につながる要素が無いか、情報を事前に得ておく必要もあるでしょう。情報収集と事前準備によって、多くの危険を回避することができます。

ポイント② 参加者への説明（セーフティートーク）

農山漁村体験をはじめ自然の中での体験は、遊園地等でのアトラクションとは違い、指導者が参加者の安全をすべて確保することが難しいため、参加者自らが自分の安全を守る意識を持つことが必要です。そのためにも、活動を開始する前に、参加者に対して、安全管理に関する説明（セーフティートーク）を行うことが重要になってきます。

セーフティートークで話すポイント

① 活動の時間

活動の開始と終了の目安や休憩のタイミング

② 道具や持ち物

使用する道具、用具の正しい使い方、活動に適した服装や、持っていくものなど

③ 場所について

活動可能な範囲、立ち入り禁止場所、非常口、など

④ 危険が予測されるポイント

体力、意識、危険な行動など、人に関すること。

地形、天候、動植物など環境に関すること。

⑤ 緊急時の対応方法

活動中の相談方法、緊急時の指導者への連絡方法、救護場所と担当者

セーフティートークを行う際には、具体的に、かつ簡潔に伝えることがポイントです。長い文章を読み上げるようにではなく、伝えたい点を箇条書き的に、かつ、理由も付け加えながら伝えるのが効果的です。

3. 防犯対策

農林漁業体験民宿は、旅館やホテルと異なり、お客様と宿主の家族との生活空間とを完全に分離することができません。そのため、万が一、家族の大切なものが盗まれたりすることのないよう、財布や貴重品は、お客様の目につかないところに保管するなどの注意が必要です。

お客様がよく使う場所（客室、食堂、厨房、トイレ、風呂、洗面、玄関、およびそれらの箇所を接続する廊下や体験場所など）は日ごろから整理整頓を心がけ、これらの場所に金目の物を置かないようにしましょう。

4. 火災予防

火災は人命の危機と財産の損失につながる恐ろしい災害事故です。火災事故の原因は“人災”によるものが多くを占めるため、日ごろから火の管理や、宿泊者への理解と協力を求め、火災事故の予防に努めましょう。

１）　施設の防火環境の整備

出火を防止することは、防火安全策の基本です。以下の点に留意し、火災が起きにくい環境を整えておきましょう。

チェックポイント
- ✓ 消火器は設置していますか？
- ✓ 火災報知機を設置していますか？（宿主の寝室、客室、階段を上がったところ、等）
- ✓ コンロやストーブの近くに物が置かれていませんか？上から物が落ちてくることはありませんか？
- ✓ コンセント、照明に異常はありませんか？
- ✓ 喫煙場所は指定していますか？
- ✓ 灰皿などの防火対策（可燃物をそばに置かない、転倒防止等）はできていますか？
- ✓ 万一の際の避難経路は確認しましたか？

２）　お客様へのお願い

お客様に安心・安全な宿をご利用いただくために、以下の点において注意していただくよう、お願いしましょう。また、喫煙の可否や喫煙時のルールについても、しっかりお伝えしましょう。

お客様へお願いすること
- ✓ ストーブを使用する際は、近くに燃えるものを置かない
- ✓ ストーブをつけっぱなしで寝ない
- ✓ 寝たばこの禁止
- ✓ 吸い殻はゴミ箱に入れず、吸い殻入れに入れる

そのほか、宿でのお願いがある場合は、一緒にお伝えしましょう。

5. 自然災害への対策

風水害対策

50 年に 1 度と言われるような大雨が、年に数回来るようになり、年々その被害も甚大化している風水害。日ごろから、側溝や排水溝をこまめに掃除し水はけ良く保つこと、避難経路などの確認をしておくこと、そして、万が一の際の食料や水の備蓄をしておくなど、日頃から備えておくことで、いざという時に慌てずに済みます。

台風または大雨接近時の対応

- ✓ 窓や雨戸、車庫をしっかりと施錠し、必要に応じて補強する
- ✓ 風で飛ばされそうなものは固定するか、屋内にしまう
- ✓ ラジオや防災無線で情報を得る
- ✓ 停電に備え携帯電話やスマートフォンを充電しておく
- ✓ 停電に備え、懐中電灯、ヘッドライトなどの明かりの確保をしておく

避難指示・避難勧告が発令された場合は、お客様の安全を確保しつつ、指定の避難所等に避難してください。しかし、すでに外に出るのが危険で、家にとどまった方が安全だと判断した場合、斜面から遠い部屋や 2 階に避難するなど、家の中でより安全な場所に避難しましょう。

お客様がチェックアウトする日に暴風雨が来て、外に出るのも危険な場合、なるべく外出を控えていただき、可能な範囲で延泊をしてもらうことも考えましょう。延泊された場合、その分の宿泊料は一般的なホテル同様、満額お支払いいただいて構いません。

地震対策

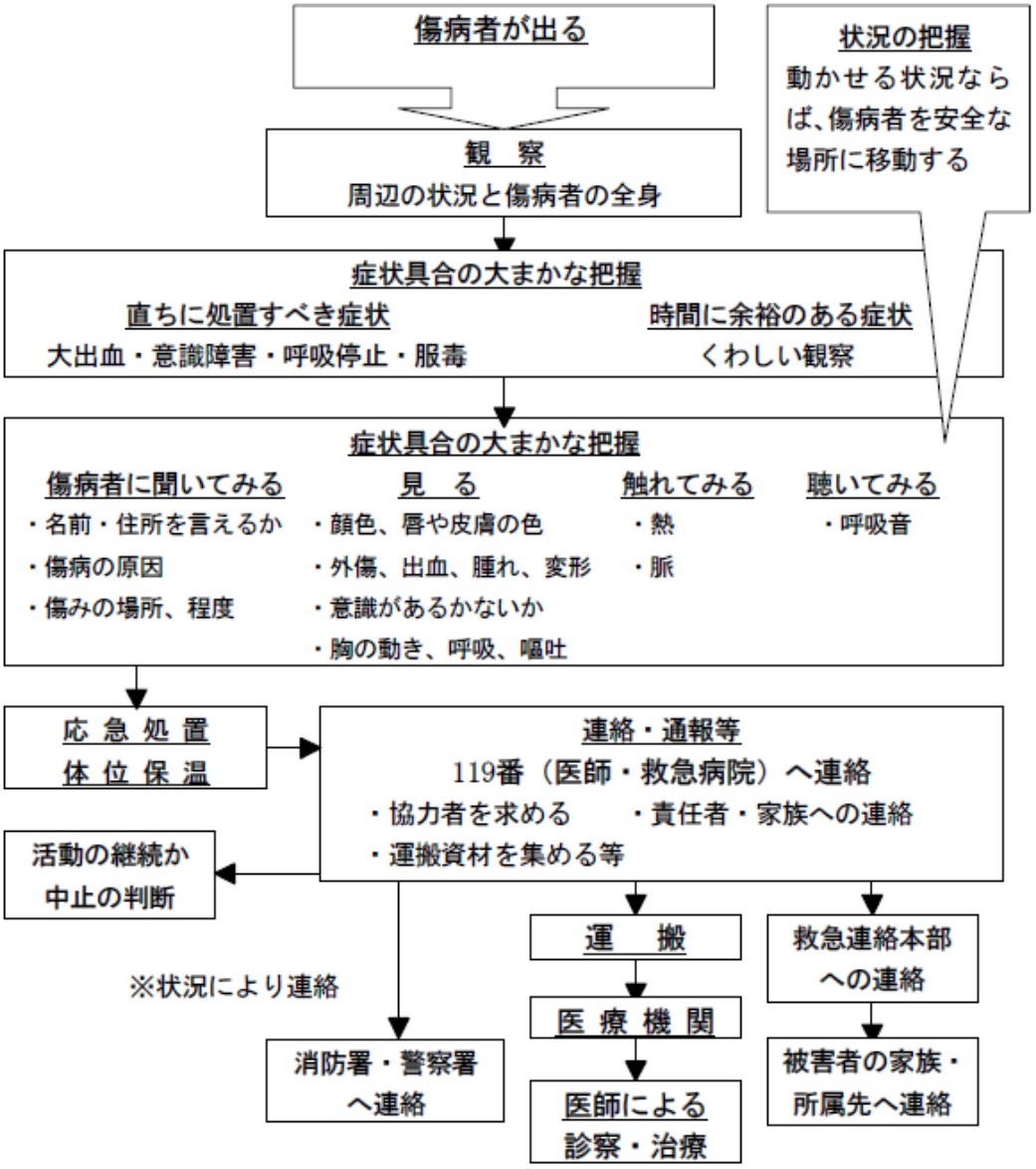
対馬は比較的、地震が少ない地域であり、地震対策にはなじみがないかもしれません。しかし、これまで起こらないと思われていた地域で大地震が発生した例もあり、油断は大敵です。地震は、いつ、どこで起こってもおかしくない、という心構えで、日ごろから対策をしておきましょう。

日ごろからの地震対策

- ✓ 家の中での避難経路と地域の避難場所の確認
- ✓ タンスや棚などは固定具を使うなどして転倒を防止する
- ✓ 高い場所にはなるべく物を置かないように整理整頓しておく

第 3 章　万が一事故が発生したら（緊急時の対応）

1. 緊急時の対応の流れ



2. 応急処置

安全を管理する上で、事前の準備と予防が何よりも大切ですが、万が一事故が起こってしまった場合の対処方法を知っておくことも重要です。ここでは、擦り傷や切り傷、ヤケドなど、農林漁業体験や自然体験をするうえで、比較的発生する頻度が多い、身近なケガや病気の対処方法を簡単にまとめました。

私たちが行う処置とは、医師が行う治療ではなく、「悪化を防ぎ、痛みや不安を和らげること」を目的にした応急手当です。必要に応じて、医師の判断を仰ぐために病院を受診しましょう。基本的な応急手当の流れは以下の通りです。

応急手当の基本の流れ

① 傷病者とコミュニケーションをとる
安心させる。ケガや病気の具合を観察したり尋ねたりする。原因となった出来事や、その時の状況について尋ねる。など

② 傷病者が楽な姿勢で安静を保つ

③ 気道の確保と平常体温を維持する

④ ケガがあれば幹部の冷却・圧迫・挙上を行う

切り傷

カマや包丁などの刃物で皮膚及び表層の組織が損傷を負った状態で、最も発生頻度の高いケガです。

ケガの評価	出血はないか？　傷口の開き具合は？　痛みはあるか？ ケガの原因になった出来事は？
対処の手順	① 安全な場所で安静にする ② 傷口に清潔なガーゼを当て、伸縮包帯で圧迫し、出血を抑える ③ ショックの兆候（青白い顔色、冷や汗、意識レベルの低下など）がないか確認する
急いで病院へ！	✓ 出血が止まらない（動脈からのどくどくと波打つように飛び出す出血） ✓ 切断を伴う場合（切断した場合は、切断した箇所をガーゼで保護し、ビニール袋に入れた上から冷却し、病院に持ち込む） ✓ 傷口がパックリと開いている状態 ✓ 頭部に傷があり、様子がおかしい場合
その他	縫合などの治療が必要になる場合が多くあります。血が止まったら、一度病院を受診し、医師の診断・治療を受けてください。

捻挫

足場の悪い地面や段差などで転んだりひねったりして、関節に急激な力が加わったときに起こります。

ケガの評価	腫れはないか？　左右を比較してみて変形はないか？　痛みはあるか？ ケガの原因になった出来事は？
対処の手順	① 安全な場所で安静にする ② ひねった場所を冷やす ③ 固定・圧迫して、患部を高くする（挙上する） ※必要に応じて③→②でも構いません
急いで 病院へ！	✓ 元の形が判別できないほどの腫れ（例：ゾウの足のように、足首がパンパンに腫れている） ✓ 関節の機能が損なわれている（例：足首がグラグラする、曲がらない）
その他	骨折している場合もあります。腫れや変形がひどい場合は、病院を受診してください。

熱傷（ヤケド）

調理中に熱くなった調理器具に触ったり、お湯をこぼしたりなど、農林漁業体験民宿では比較的発生頻度が高いケガの一つです。ヤケドの大きさと程度によってはすぐに病院への搬送が必要になりますので、判断方法も覚えておきましょう。

ケガの評価	重症度Ⅰ：赤くなった皮膚、ヒリヒリする感覚 重症度Ⅱ：水ぶくれができる、強い痛み 重症度Ⅲ：白っぽく変色した皮膚、黒焦げになった皮膚、感覚がない ケガの原因になった出来事は？
対処の手順	① ヤケドの原因になっているものを安全に取り除く（電気はブレーカーを落とす、化学薬品は払い落とす、洗い流す） ② 患部を清潔なガーゼ・タオルなどで保護する。衣類の上からヤケドを負った場合は、無理に衣類を脱がせようとしない。 ③ 水をかけて冷やす ④ 冷やしすぎてショックを誘発しないように管理する（患部以外は体温を維持するなどのケアをする） ⑤ 水ぶくれができた場合は潰さないように、清潔なガーゼ類で保護する

急いで 病院へ！	✓ バーンインデックス 10~15 以上の重症のヤケド バーンインデックス＝Ⅲ度の面積％＋Ⅱ度の面積％の 1/2 ※手のひらの大きさが、体の面積の約１％です。 例）手のひら２つ分のⅢ度のヤケド＋手のひら４つ分のⅡ度のヤケド バーンインデックス=Ⅲ×2＋Ⅱ×4/2= 6 ＋ 4 ＝10　→病院へ！ ✓ 顔面、生殖器、関節、気道内のヤケド ✓ 電気によるヤケドで、呼吸停止・心停止を伴う場合（心肺蘇生法を実施し、AED を使用する）

腹痛・嘔吐・下痢

腹部の痛みは、様々な原因で起こります。転倒、衝突などによる腹部への打撲のほか、中毒物質の摂取や冷えなどで生じることもあります。食事や排せつ、心理状態とも関係が深く、一見して原因を探るのが困難なこともあります。

症状の評価	アレルギーや飲んでいる薬について尋ねる 最後に食べたものは？　以前にも同じような症状が出たことは？ 症状につながった出来事は？　排泄の状況は？
対処の手順	① 安全な場所で、傷病者が楽だと感じる姿勢で安静にする ② 必要に応じて腹部に毛布やタオルをかぶせるなどして、傷病者の体温の維持に努める
急いで 病院へ！	✓ 強く急激な痛みを訴えている場合（急性盲腸炎など） ✓ 腹部に強い衝撃が加わった場合（腫れや組織の変色、抑えると痛いなど） ✓ 中毒の恐れがある場合（嘔吐や下痢を繰り返すなど） ✓ 意識レベルが低下した場合（心肺蘇生法と AED の準備をする） ✓ 呼吸不全、呼吸停止の場合（心肺蘇生法を行い AED を使用する）
その他の 注意点	✓ 嘔吐や下痢を伴う際は、救助者は使い捨て手袋やマスクなどのバリア類を整え、吐しゃ物や排泄物に直接触れないように介助する ✓ 嘔吐や下痢を繰り返す場合は、脱水症状やショック症状にも注意する ✓ 飲み物や食べ物で自体が好転することはほとんどないので、安易に飲み物や食べ物を与えることで事態の収拾を目指そうとしない（傷病者との意思疎通が可能で、傷病者が望む場合には、水や白湯などの補給を手助けする）

アナフィラキシーショック

アレルギー物質が体内に入ることで起こるショック症状です。食物アレルギーのほか、スズメバチに刺されるなどで生じることもあります。

症状の評価	アレルギーや飲んでいる薬について尋ねる 最後に食べたものは？　以前にも同じような症状が出たことは？ 症状につながった出来事は？ 痛み、腫れはある？　刺さった異物（針・とげ）などは？
対処の手順	① 安全にアレルギー源を取り除く ② 呼吸不全など、緊急性の高い症状があり、傷病者がエピネフリンの自己注射器（エピペン®）を携帯している場合は、自己注射器の使用を手助けする
急いで 病院へ！	✓ アレルギー源に触れてすぐに症状が出た場合（じんましん、のどの腫れ、むかつき、胸のしめつけなど） ✓ 意識レベルが低下した場合（心肺蘇生法と AED の準備をする） ✓ 呼吸不全、呼吸停止の場合（心肺蘇生法を行い AED を使用する）
その他の 注意点	アレルギー源に触れてからしばらくしてから症状が出るような場合は、安静にして経過を観察する ※一般的に、アレルギー源への反応が早いほど、症状が重篤であるとされています。

熱中症

熱中症とは、熱失神、熱けいれん、熱疲労、熱射病など、熱い環境で生じる健康障害の総称です。直射日光の下での作業や運動時だけでなく、高温多湿な室内でも熱中症は起こります。

症状の評価	軽度：立ちくらみ、けいれん、大量の発汗 中度：吐き気、倦怠感、頭痛、冷たい皮膚など→医師の診察を受ける 重度：発汗の停止、乾いた皮膚、体温が高温、意識レベルの低下など →速やかに救急搬送 最後に食べたものは？どのぐらい水分をとっていた？ 症状につながった出来事や状況は？
対処の手順	① 原因になっている場所から安全に非難し、安静にする

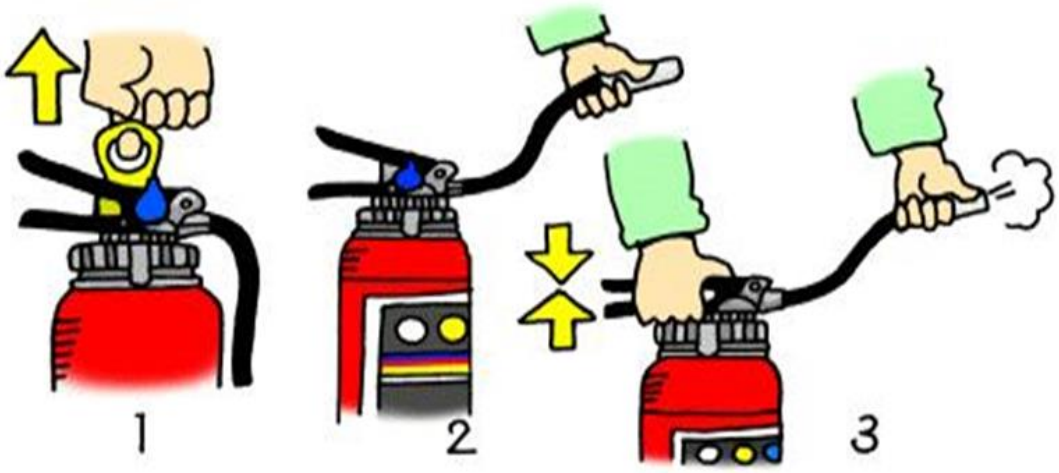
	② 軽度の場合、日影や涼しい場所に移動し、水分・塩分（スポーツドリンクや経口補水液など）を補給する。（意思疎通がしっかりとれて、本人が望む場合。 ③ 中度の場合、太ももや脇の下、首などを冷やす、水をかける、風を当てるなどして、傷病者の体温を下げる。 ④ 重度の場合、首から下を水風呂につけるなどの方法で、体全体を冷却する。
急いで 病院へ！	✓ 重度の症状がある場合 ✓ 意識レベルが低下した場合（心肺蘇生法と AED の準備をする） ✓ 呼吸不全、呼吸停止の場合（心肺蘇生法を行い AED を使用する）

3. 火災が発生したら

火災発生時には「初期消火」・「避難誘導」・「通報」の３つの役割分担が必要です。普段から、様々なケースを想定して、“いざ”という時に戸惑わないために、大まかな役割分担を決めておくと良いでしょう。

火がまだ小さかったら【初期消火】

まず「火事だー！」と大声で周辺の者に知らせ、手近な消火器を持ち“初期消火”に当たります。



１)安全栓を引く　　２)ホースを火元にむける　　３)レバーを強く握る

※火の根本を狙ってほうきで掃くように噴射します
※粉末消火器の噴射時間は約１５秒です。

天井まで火がまわっていたら【避難誘導＆通報】

自分では対応できないと思ったら、お客様を安全な場所に避難させ、ためらわずに 119 番通報しましょう。避難誘導する人と通報する人に役割分担し、迅速に行います。

避難誘導する人は、部屋のドアをたたき、大きな声で「火事だー！」と叫びながら火災を知らせ、すばやい避難誘導を促します。その際、タオルを口に当て姿勢を低くして移動するなど、煙に巻かれないようにしましょう。

通報する人は、自身が安全な場所に避難した後、以下の手順で通報します。

火災時の緊急電話のかけ方

① 局番なしの「**119**」番に電話をする。
② 「火事ですか？救急ですか？」と尋ねられるので、「**火事です**」と告げる。
③ 消防車に来てもらう住所を伝える（目印となる建物や交差点があれば伝える）。
④ **どこの→何が→どのくらい燃えているか→けが人がいないか** の順で伝える。
⑤ 自分の氏名と電話番号を知らせる。

4. 地震が発生したら

突然大きな揺れが来ると動揺してしまうものですが、慌てて屋外に飛び出すのは危険です。冷静に行動できるよう、揺れたときにどうするかをシミュレーションしておきましょう。

揺れている！と思ったら

- ✓ 机の下などに潜り、揺れが収まるまで身を守る体勢をとる
- ✓ ものが倒れてくる恐れがあるので、タンスや物置の近くにはいかない
- ✓ 火を使っている場合は消した方がいいですが、無理をして消しに行くとやけどをする恐れがあります。揺れが収まってからでも落ち着いて火を消す
- ✓ 逃げ道を確保するため、窓や玄関を開ける

揺れが収まったら

- ✓ お客様の安否確認を行う
- ✓ 火災が起きていないか確認する。火災が発生している場合、天井にまで燃え上がっていたらすぐに避難する
- ✓ 電気・水道が途絶えていないか確認する
- ✓ ラジオや防災無線で情報を得る
- ✓ 津波警報が発令されている場合、速やかに避難所または高台に避難する
- ✓ 避難する際は、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉める

第 4 章　体験プログラムにおける安全管理

1. 調理体験

農林漁業体験民宿において食事を提供する際は、お客様との「共同調理」が基本になります。自分一人で調理する場合と違って、食中毒の防止や調理中のけがの防止など、お客様にも気を付けてもらわなければいけないポイントがたくさんあります。

ポイント① 事前の情報収集、準備

参加者についての情報収集や、用具・器具の点検など、事前の準備を入念に行うことで、食中毒や調理中のけがなどを防止することができます。

- ✓ お客様のアレルギー情報の取得
  ソバなど重篤化しやすい食材については、食材そのものを使用しなくても、同じ空間にあるだけでアレルギー反応を起こすものもあります。アレルギー食材だけでなく、その程度や回避方法についても、確認しておきましょう
- ✓ 参加人数に応じた十分なスペースの確保
  調理台の上を片付けておくなど、お客様が使いやすいようにスペースを広くあけておきましょう。
- ✓ 用具、器具の準備・消毒
  切れない包丁はとても危険です。こまめに手入れをし、切りやすい包丁を維持しましょう。また、使用するまな板などは消毒しておきましょう
- ✓ 食材のチェック
  食材、調味料は古くなっていないか、確認しておきましょう

ポイント② 参加者への説明（セーフティートーク）

以下の点に留意して、活動を開始する前に、参加者に対して、安全管理に関する説明（セーフティートーク）を行います。

- ✓ 手洗い・消毒のお願い
  調理前には必ず手洗い消毒をお願いします。また、体験中トイレに行くことが無いよう、事前にトイレを済ませておく方が望ましいでしょう。
- ✓ 服装のチェック
  調理用の手袋やヘアキャップ、エプロンなどがある場合は、着用してもらいます。時

計や指輪などのアクセサリーも外してもらいましょう。

✓ 全体の手順の説明
全体の流れの中で、お客様にはどの部分を体験してもらうかを説明します。対馬独特の食材や郷土料理などの体験の場合、背景のストーリーも紹介することで、お客様の調理に対する関心、集中力が高まります。

✓ 道具の使い方、注意する点
特に体験者が子供の場合は、包丁の持ち方や切り方、手の置き方など、丁寧に説明してあげましょう。

室内であっても、火のそばでずっと料理をしていると、熱中症になる可能性があります。こまめな水分補給を呼びかけましょう

2. 海での体験

対馬では、海の体験は最も人気の高い体験の一つです。漁師さんの自宅で、漁師さんが釣った（獲った）新鮮な魚介類を食べることができるだけではなく、漁師さんの指導の下、自らも釣りや磯遊びを体験できるというのは、対馬の農林漁業体験民宿の一番の目玉と言ってもよいでしょう。

しかし、海での体験活動は、一歩間違えれば死につながる可能性もある、非常にリスクの高い体験だということも、常に頭に入れておく必要があります。海での経験の少ない人にとっては、私たちが普段何気なく行っていることでも、危険につながることもあります。受入側は、体験者のことを常に考え、安全確保に努めましょう。

ポイント① 事前の情報収集、準備

参加者についての情報収集や、用具・器具の点検など、事前の準備を入念に行うことで、体験中の事故を防ぐことができます。

✓ お客様の年齢、体力、海での経験値

✓ 天候、海況の予報
天気予報、マリンウェザー情報などで、お客様が体験される日の状況を予測しておきましょう。海況によっては準備しなければいけないものが変わってきます。中止の可能性が高い場合は、事前にお客様にもその情報をお伝えしておくことで、中止になった際の落胆を和らげることができます。

✓ 実施場所の状況
滑りやすい岩場や転落し易そうな崖、船に乗り降りする際の足場など、事故につながるような場所がないか、事前に下見をしておきましょう。

✓ 危険生物
クラゲやウニ等の毒のある生物が生息していないかどうか、あらかじめ把握しておきましょう。

✓ 道具の点検
壊れていないか、外れやすくなっていないか、お客様の年齢や経験に合っているかなど、事前に点検しておきましょう。

ポイント② 必要になる装備

海での体験に適した服装、装備をそろえ、お客様にも情報共有し、準備してきてもらいましょう。

体験提供側（民泊側）で準備するもの
- ライフジャケット
- ファーストエイドキット（クラゲなどの危険生物の解毒にも対応可能なもの）
- 予備用の飲み物や塩分、糖分補給用のお菓子など
  夏場は、飲料の他に保冷剤なども一緒に持っていくと、いざという時体を冷やす道具としても活用できます

お客様に準備してきてもらうもの
- 気温、天候に応じた適切な服装（防寒、防風）
- 帽子
- 滑らない靴
- 水分補給用の飲み物

ポイント③ 参加者への説明（セーフティートーク）

以下の点に留意して、活動を開始する前に、参加者に対して、安全管理に関する説明（セーフティートーク）を行います。

✓ 事前にトイレを済ませておく
一度海に出てしまうと、なかなか引き返すことができません。我慢しながらの体験は楽しさ半減ですし、事故にもつながります。必ずトイレを済ませておくように、声掛けしましょう。

✓ 服装や持ち物のチェック
服装や持ち物について、安全面での意義も含めて説明しましょう。特に、ライフジャケットは必ず着用してもらいましょう。

- ✓ 危険な場所、生物、行為について
  濡れている岩は滑りやすい、ウニには触らない、走行中の船で立ち上がると危険、など、ポイントを箇条書き的に説明しておきます。
- ✓ 道具の使い方、注意する点
  釣りなどになれていない方に対しては、あらかじめ道具の使い方や、餌の付け方、釣れた魚の取り方などを教えてあげましょう。船での釣り体験の場合、説明は船に乗る前に済ませておく方がよいでしょう。

天候や海況によって中止せざるを得ない時は、理由を説明し、きっぱりと中止の判断を告げましょう。

3. 農業体験

対州そばや原木シイタケ、対馬産の赤牛など、対馬ならではの特産品の生産過程を体験するプログラムは、お客様にも人気があります。畑仕事や家畜のお世話などは、癒しを求めて対馬を訪れた人にとって、心にしみる素敵な旅行の思い出になるでしょう。

しかし、農業機械など普段使い慣れていない道具を使用するため、ケガのリスクは高まります。屋外での作業に慣れていない人にとっては、外での仕事は思った以上に体力を消耗します。参加者の様子をよく観察し、適宜休憩を入れてあげたり、使い方を教えてあげたり、お客様に寄り添って安全に楽しみましょう。

ポイント① 事前の情報収集、準備

参加者についての情報収集や、用具・器具の点検など、事前の準備を入念に行うことで、体験中の事故を防ぐことができます。

- ✓ お客様の年齢、体力
- ✓ 天気予報
  天気予報をチェックし、お客様が体験される日の状況を予測しておきましょう。
- ✓ 実施場所の状況
  日陰や休憩場所を確保できるか、トイレをどうするかなど、検討しておきましょう。
- ✓ 危険生物
  スズメバチやマダニなど刺したり咬んだりする生物が出現しないか、ツタウルシやハゼなど、触れるとかぶれる植物は生えていないかなど、あらかじめ状況を把握しておきましょう。
- ✓ 道具の点検・手入れ
  ハサミ・鎌などの手入れはあらかじめ済ませておきましょう。

ポイント② 必要になる装備

農場での体験に適した服装、装備をそろえ、お客様にも情報共有し、準備をしてきてもらいましょう。

体験提供側（民泊側）で準備するもの

- 虫よけスプレー
- ファーストエイドキッド
- 長靴やヤッケ、作業用手袋などの作業着
  ※必要に応じて、お客様に準備してきてもらってもよいでしょう。
  ※長靴はマダニ対策にもなります
- 予備用の飲み物や塩分、糖分補給用のお菓子など
  夏場は、飲料の他に保冷剤なども一緒に持っていくと、いざという時体を冷やす道具としても活用できます

お客様に準備してきてもらうもの

- 気温、天候に応じた適切な服装（防寒、防風）
- 帽子
- 水分補給用の飲み物

ポイント③ 参加者への説明（セーフティートーク）

以下の点に留意して、活動を開始する前に、参加者に対して、安全管理に関する説明（セーフティートーク）を行います。

✓ 事前にトイレを済ませておく
農場ではトイレが近くにない場合もあります。我慢しながらの体験は楽しさ半減ですし、事故にもつながります。必ずトイレを済ませておくように、声掛けしましょう。

✓ 服装や持ち物のチェック
服装や持ち物について、安全面での意義も含めて説明しましょう。帽子は必須です。

✓ 道具の使い方、注意する点
鎌やハサミなどの刃物は特に、持ち方などの基礎的なところから説明しましょう。農業機械を使う場合なども、使用する前に、使い方や、使い方を誤った時の危険性などをしっかりと説明しましょう。

注！）赤牛の飼育体験を行う場合、長靴・白衣を着用し、牛舎に入る時・出る時に必ず石灰粉を踏んでもらいましょう。口蹄疫予防のため、お客様にも理解してもらいましょう。

第 5 章　外国人観光客への対応

当協会では、韓国をはじめとした多くの外国人観光客に、民泊をご利用いただいています。外国人観光客を受け入れる場合、日本人観光客とは異なる点において注意が必要な場面があります。外国人観光客の方にも、安心して民泊をご利用いただきましょう。

1. 事前の情報収集

宿泊者が、国内に住所を有しない外国人であるときは、パスポートを提示してもらい、コピーを取り、名簿と一緒に保管しておきましょう。コピーが難しい場合は、宿泊者名簿に国籍およびパスポート番号を記入してもらいましょう。

2. 緊急時の対応

1）　外国語での情報収集

外国人観光客が宿泊中に、台風や地震などの災害が起こった場合、言葉の通じない外国での出来事に、お客様は大変不安な思いをされているはずです。安全の確保を行ったうえで、外国人向けに災害情報の発信を行っているサイトなどを勧めてあげましょう。

災害情報はこちらから確認できます。

You can check the disaster information from here.

NHK WORLD JAPAN

iPhone/iPad　Android

Safety tips

iPhone/iPad　Android

2）　体調が悪くなった場合

お客様の体調が悪い、もしくは大けがをしたなどの理由で、病院への受診が必要な場合は、以下のものを忘れずに持っていきましょう

- パスポート
- 現金・クレジットカード
- お客様が普段飲んでいる薬

第 6 章　感染症への対策

様々な人が宿泊に訪れる民泊において、感染症対策は重要です。

特に、令和 2 年全世界的に蔓延した、新型コロナウイルスのような感染症が流行している時期には、密閉・密集・密接といった「三つの密」を避けるなど、より一層の対策が求められます。お客様とご自身の身の安全を守るために、日ごろから衛生管理には気を付けておきましょう。

1. 受け入れ環境の整備

衛生管理を行うために、以下のものを準備しておきましょう

民泊側で準備するもの

- マスク（受け入れ家庭分と、万一忘れたお客様用に、余分に用意しましょう）
- 体温計（非接触型が望ましいですが、ない場合は使用前後に消毒を行います）
- 手洗い用液体石鹸
- 手拭き用使い捨てペーパータオル
- 手指消毒用の消毒液（玄関・洗面所）
- 施設消毒用の消毒液
- 使い捨てビニール手袋
- 使い捨て紙コップ（歯磨き用として洗面所に置いておく）

2. 事前の情報収集

感染した場合に速やかに対応できるように、以下の情報を事前に入手しておきましょう。

入手しておく情報

- お客様全員の住所と緊急連絡先
- お客様全員の旅行前 2 週間の体調（健康チェック表に基づき、記入してもらう）
- 接触者の情報（接触確認アプリを 2 週間前からは利用してもらう）

万一、発熱や風邪の症状がみられた場合、または濃厚接触した人の中に感染者が出た場合は、速やかに事務局まで報告してもらい、旅行のキャンセルをお願いするようにします。

受け入れ側の家族も、お客様が宿泊される 2 週間前から、同様に体調の記録を行っておきましょう。発熱や風邪の症状がみられた場合、または濃厚接触した人の中に感染者が出た場合は、速やかに事務局にご連絡ください。その後の宿泊客受け入れを辞退していただき、予約がある分については、他の会員の民泊へ振り分けるように調整いたします。

3. 滞在中に留意すること

ポイント① 施設のこまめな消毒

高い頻度で接触する場所については、特に注意してこまめな消毒を心がけましょう。

高頻度接触部位
- ドアノブ
- 電気のスイッチ
- 電気や空調のリモコン
- 蛇口
- 手すり
- 椅子の背もたれ
- テーブル　　など

※アルコール消毒液は「引火性」があるので、コンロの近くやストーブの近くには置かないよう、気をつけましょう。火災につながる恐れがあります。
※消毒に有効なアルコールの濃度は 70～83%ですが、アルコールは揮発性があるため、長時間放置しておくと濃度が薄まってしまうので、注意しましょう。

ポイント② 施設のこまめな換気

食堂や客室は定期的に窓を開けて換気を行う、トイレの換気扇は常につけておくなどして、空気の入れ替えを行いましょう。

ポイント③ マスクの着用

お客様滞在中は、マスクを着用するようにします。また、お客様にもマスクの着用を呼びかけましょう。

ただし、気温や湿度が高い中でのマスクの着用は要注意です。水分をこまめに取るようにしましょう。屋外で、人との十分な距離が確保できる場合は、マスクを外してもよいこととし、熱中症にかからないように注意しましょう。

マスクの着用時は、可能な限り負荷のかかる作業は避けるようにしましょう

ポイント④ こまめな手洗い・消毒

帰宅時、調理の前後、食事の前後は必ず手洗いを行いましょう。手洗い後はペーパータオルを利用し、複数の人でタオルを共有しないようにします。可能であれば、手洗い、乾燥後に手指消毒を行います。
※アルコールに敏感な方には、消毒を強制せず、石鹸・流水による手洗いを徹底してもらいましょう。

ポイント⑤　距離の確保

人との距離を保てるよう、以下のような工夫をしましょう。

- 布団の間隔はできるだけ離す
- 食事中の席はできる限り横並び、または互い違いに着席させる等、可能な限り真正面での対面着席を避ける
- アクリル板やビニールシートで仕切りを設置する
- 体験はできるだけ広い空間で行い、説明などの時は、拡声器を利用したり、プリントを配布したりなどして、距離を取りつつも指示が通る工夫をする

ポイント⑥　共用・接触を避ける食事の提供

お客様が同じ用具（箸やトング等）を使いまわすことが無いよう、食事の提供の際は以下の点に留意しましょう。

・盛り付けは、原則一人盛り（大皿から取り分ける食事の形式を極力とらない）
・鍋などは、受け入れ側が取り分けて提供し、お客様同士が同じ用具を使わないようにする
・調味料は食事中に使用することが無いよう、あらかじめ銘々に取り分けておく

ポイント⑦　滞在中の体調チェック

滞在中も、朝と夕方の検温および体調の記録を行いましょう。

4. お客様へお願いすること

感染症流行時においては、お客様には極力マスクを着用してもらいましょう。

チェックイン時にはアルコール消毒を行い、徹底した手洗い・うがいへの協力を呼びかけましょう。可能であれば検温も行うとよいでしょう。

手指消毒用のアルコールは、玄関や手洗い場、キッチンなど数か所に分けて設置すると、こまめに消毒を行いやすくなります。

5. 感染症が疑われるお客様がいた場合

宿泊中のお客様に「感染の疑いがある症状」がでた場合、速やかにそのお客様を部屋に隔離し、マスクを着用し、外へ出ないようにお願いします。（同行者も同様）

同意を得た上で、対馬保健所に連絡し、宿泊客の状況や症状を伝えその後は保健所の指示に従って行動しましょう。

【対馬保健所】TEL：0920-52-0166

感染の疑いがある症状の目安

- 息苦しさ（呼吸困難）
- 強いだるさ（倦怠感）
- 高熱等の強い症状

発熱や咳などの軽い風邪の症状であっても、感染症流行時には感染を疑い、適切に行動しましょう。

コラム：家畜伝染病に対する対策

民泊の中には、自宅で牛や鶏などの家畜を飼育している家もあります。
そのような家畜農家にとって、家畜伝染病はとても恐ろしい存在です。家畜を飼育している農山漁村体験民宿へ宿泊希望されたお客様のうち、韓国からの旅行者および「口蹄疫」「豚コレラ」「鳥インフルエンザ」の発生地域からの宿泊予約は、事務局よりお断りさせていただきます。

付録

安全管理チェックリスト

【宿泊客受け入れ前】

① 火災対策はできていますか？	良否	確認日
■ 消火器は分かりやすい場所に設置していますか？		
■ 人が寝る部屋全てに火災警報器はついていますか？作動しますか？		
■ 喫煙場所の指定と、防火対策はできていますか？		
■ 避難経路は確保されていますか？		
■ コンセントにホコリは溜まっていませんか？		
■ 照明器具に異常はないですか？		
■ 定期的に漏電のチェックをしてもらっていますか？		

② 台所・調理場の衛生管理はできていますか？	良否	確認日
■ 調理場は清潔に保たれていますか？		
■ 食器・箸・スプーンなどは清潔ですか？		
■ ふきん、台ふきなどは清潔ですか？		
■ まな板や包丁は消毒しましたか？		
■ 冷蔵庫内の整理はできています？		
■ 食料品・調味料の賞味期限、消費期限は切れていませんか？		
■ 次亜塩素酸ナトリウムは用意していますか？（ノロウイルス対策）		
■ 使い捨ての手袋は準備してありますか？（嘔吐・下痢が出た時も使う）		

③ トイレ・風呂場の清掃はできていますか？	良否	確認日
■ トイレ、洗面所の手洗い場所には、除菌用石鹸は設置していますか？		
■ トイレ、風呂場の清掃や備品、消耗品の確認はできていますか？		
■ 手洗い場所にはペーパータオルとゴミ箱は設置していますか？		

④ その他	良否	確認日
■ 宿泊者の情報は把握していますか？（アレルギー、持病等）		
■ 食物アレルギー対策メニューはできていますか？		
■ 寝具は清潔ですか？		
■ 財布、貴重品は目の付かないところに保管していますか？		
■ 停電時の対策はできていますか？		

【体験客受け入れ前】

① 事前の準備・情報収集	良否	確認日
■ 天気予報、海況予報などで、当日の天気の予測はしていますか？		
■ 参加者の情報は把握していますか？（アレルギー、持病、年齢、経験）		
■ 体験場所の下見はしましたか？危険箇所の把握はできていますか？		
■ 使用する道具、器具、機械の点検・整備は済んでいますか？		
■ 救急セット、予備の水やおやつなどの準備はできていますか？		
■ 緊急時の連絡先の確認はできていますか？		
■ 医療機関や避難場所までの道のり、連絡先の確認はできていますか？		
■ 事前に行う説明（セーフティトーク）の内容は決まりましたか？		

② 体験実施直前	良否	確認日
■ 参加者やスタッフ、自分自身の体調は万全ですか？		
■ 気象条件は、実施する上で問題ないですか？		
■ 参加者の服装は、体験に適していますか？		
■ 参加者の持ち物は適切ですか？忘れ物はありませんか？		
■ 補給用の水分と、おやつ類は持ちましたか？		
■ トイレは済ませてありますか？		
■ 参加者はそろっていますか？（出発前、体験中、終了時の人数確認）		
■ 注意事項や体験内容、器具の使い方などの説明は徹底しましたか？		

② 体験終了時	良否	確認日
■ 参加者やスタッフ、自分自身の体調に、異常はありませんでしたか？		
■ プログラムや体験内容は適切でしたか？		
■ 危険箇所への対処や、道具や機械の手入れは適切でしたか？		
■ 装備や服装は適切でしたか？		
■ 事前の説明は十分でしたか？		

【基本的な救急用品（ファーストエイド・キッド）】

- □ 消毒液
- □ 洗浄綿
- □ 滅菌ガーゼ
- □ 絆創膏
- □ 包帯
- □ 三角巾
- □ 副腎皮質ホルモン軟膏（抗ヒスタミン剤配合）
- □ ペットボトルの水（洗浄用）
- □ 目薬（使い切りタイプ）
- □ 冷却ジェル
- □ レジャーシート
- □ ビニール袋
- □ 大きめのとげ抜き
- □ はさみ
- □ 安全ピン
- □ ハンドタオル

緊急連絡先一覧

緊急連絡先			
名称	電話番号	名称	電話番号
消防署（緊急時）	119	対馬市消防署	0920-52-0119
警察署（緊急時）	110	対馬南警察署	0920-52-0110
		対馬北警察署	0920-84-2110
対馬保健所		0920-52-0166	
対馬グリーン・ブルーツーリズム協会		0920-85-1755	

救急指定医療機関		
病院名	電話番号	住所
長崎県対馬病院	0920-54-7111	美津島町雞知乙 1168 番 7
長崎県上対馬病院	0920-86-4321	上対馬町比田勝 630

救急電話のかけ方

① 局番なしの「119」番に電話をする。

② 「火事ですか？救急ですか？」と尋ねられるので、「救急です」と告げる。

③ 救急車に来てもらう住所を伝える。

④ 場所は大きい目印と近くの目印も細かく伝える。

⑤ 容態は いつ→どこで→どのようにして→どうなったのか→現在の容態は の順で伝える。

⑥ 自分の氏名と電話番号を知らせる。

対馬グリーン・ブルーツーリズム協会

2021 年　3 月 31 日発行

編集発行　対馬グリーン・ブルーツーリズム協会事務局

〒８１７－１５３３

長崎県対馬市上県町志多留３０７

TEL　　０９２０－85－1755

Mail　　info@tsushima-gbt.com

URL　　http://tsushima-gbt.com/